

TS MEGA

MANNUAL V1.0



TS MEGA INTRODUCTION

第一世代のTS MEGAコントローラーは、2005年に設計、製作された、シンプルなMIDIコントローラーでした。翌年には、ソフトウェアエフェクトやハードウェア機器のコントローラーに直接使用できるTONE SHIFTER 2.0を制作しました。その後、TONE SHIFTER 3と3sには更にフィーチャー・オーディオ・インターフェースが追加されました。最初に、オーディオ・インターフェースとMIDIコントローラーを組み合わせたコンセプトを提案、このアイデアは、間違いなくソフトウェアエフェクトに精通した人達に感動を与えると確信しました。高価なハードウェアギアを必要としていたサウンドは、ラップトップ、iPad、または単なるスマートフォンからでも手軽に入手可能です。ライブのツアーにこれを持っていくことで、はるかに便利になる事を実感するでしょう。また、レコーディングスタジオに持ち込んでも、ハイエンドラックユニットを使用することなく素晴らしいサウンドレコーディングを体験できます。これらすべてには、エフェクトソフトウェアとモバイルデバイスの急速な発展のメリットがありますが、我々が改良したオーディオインターフェースと便利なMIDIコントローラーも重要な役割があります。これを試した多くの友人は絶賛、彼らの感想に深く感銘を受けました、そして様々な困難を乗り越えようたく最新のTS MEGAをリリースに成功しました。この作品はプロトタイプ時期から、様々な楽器イベントで数多くのシニアミュージシャンとギタリストによって、厳密に試奏されました。下記はそこで私たちが得たレビューの一部です。

“ギタリストにとって、最高のトラベリングギアだ!”

——NAMM 2018 アメリカのギタリストより

“ピックネームのギアを沢山使い続けている中、ギター歴40年経ちますが、こんな素晴らしいものは初めて見ました!”

—— 2018にて40分試奏したシニアギタリストより

私たちは深く鼓舞され、数多くのミュージシャンの為により多くのすばらしい製品を研究する為に精進し続けます。



図1. TS MEGAとiPadおよびEXPPペダル

TS MEGAは、従来のTS3,3Sに比べ、下記の様に進化しました。

- ・サンプリングレートと深さが最大192 kHz / 24ビットまで上昇
- ・より演奏力の高い要求に応える為、フットスイッチの数を8に増加
- ・デュアルエクスプレッションペダル入力を追加します。これは、内部でWah、音量、その他のソフトウェアエフェクトの制御可能なパラメータに転送されます
- ・より豊かなスクリーンコンテンツ
- ・バランスおよびアンバランス出力をサポート
- ・ミキサーコンソールとアンプとの接続にXLR出力ジャックを追加

- ・コンデンサーまたはダイナミックマイク用にXLRの追加
 - ・コンデンサーマイクのための内蔵ファンタム電源
 - ・47dBまでの内蔵入力プリアンプ
 - ・内蔵ハイファイ・イヤホンアンプ
 - ・ペダルのMIDIパラメーターを変更するための2つのカスタムモードの追加
 - ・ハードウェアモニタリング機能の追加
 - ・携帯電話やタブレットを置くためのスロットを追加
- これらのすべての改良点は、練習、レコーディング、演奏の面でより便利なツールを提供するために目指したものです。

PANEL OPERATIONS

(以下の図2,3,4は、TS MEGAオーディオインターフェース、MIDIコントローラー、および表示部の機能と操作を詳述しています。)

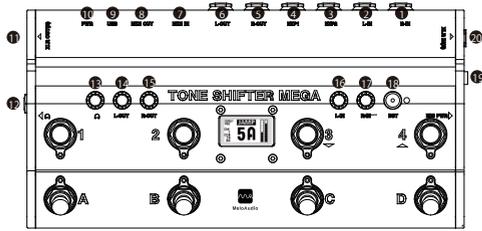


Figure 2. Main Functional Description of Audio interfaces

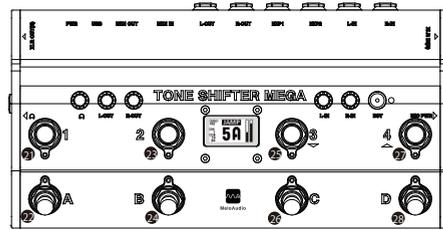


Figure 3. Functional Description of MIDI Part

- 1 コンデンサー・マイク/ダイナミック・マイク用1/4バランス入力
- 2 ギター/ダイナミック・マイク用1/4アンバランス入力
- 3 エクスプレッションペダル用入力2
- 4 エクスプレッションペダル用入力1
- 5 Rチャンネルの1/4バランス出力
- 6 Lチャンネルの1/4バランス出力
- 7 MIDI入力
- 8 MIDI出力
- 9 USB-B connector
- 10 オプション・パワーサプライ用マイクUSB
- 11 RチャンネルのXLR出力(5を使用していない時に利用可能)
- 12 200mW HiFiアンプ内蔵1/4ステレオ・イヤホン出力(ステレオ・モニター・ライン出力としても使用可能)
- 13 イヤホン出力のゲイン調整(0~48/-100dB ~ 10dB)ノブを押すとクイック・ミュートになります。
- 14 Lチャンネルのライン出力調整 (0~48/ 0~100%)ノブを押すとクイック・ミュートになります。
- 15 Rチャンネルのライン出力調整(0~48/ 0~100%)ノブを押すとクイック・ミュートになります。
- 16 Lチャンネルのゲイン出力調整 (-10~20dB)ノブを押すと左の入力からLとR出力を<0.5msレイテンシーにダイレクト・ミックスします。
- 17 Rチャンネルのゲイン出力調整(-10~20dB)ノブを押すと右の入力からLとR出力を<0.5msレイテンシーにダイレクト・ミックスします。
- 18 Lチャンネルのリアアンプの前の、内蔵アナログ信号クリーン・ブースト・インサートのトゥルーパー・バイパス・スイッチ
- 19 マイク用ファンタム・電源のオン/オフ(スイッチ)LEDランプ
- 20 コンデンサー・マイク/ダイナミック・マイク用XLR入力(1を使用していない時に利用可能)
- 21 電源を入れる前に押し続けると、デバイスはJAMPホスト・モードに選択されます。
- 22 通常時にこのボタンを押すと、CC# MIDIコマンドまたはPCプログラム変更コマンドがホスト・モードの定義によって送られます。
- 23 電源を入れる前に押し続けると、デバイスはATOMホスト・モードに選択されます。
- 24 通常時にこのボタンを押すと、CC# MIDIコマンド またはPCプログラム変更コマンドがホスト・モードの定義によって送られます。
- 25 電源を入れる前に押し続けると、デバイスはBIFXホスト・モードに選択されます。
- 26 通常時にこのボタンを押すと、CC# MIDIコマンド または PCプログラム変更コマンドがホスト・モードの定義によって送られます。
- 27 電源を入れる前に押し続けると、デバイスはPC-8xホスト・モードに選択されます。
- 28 通常時にこのボタンを押すと、PCプログラム変更コマンドは、全てのフット・スイッチで1~8のマッピングに固定されます。
- 29 電源を入れる前に押し続けると、デバイスはKMPAホスト・モードに選択されます。
- 30 通常時にこのボタンを押すと、CC# MIDIコマンド またはPCプログラム変更コマンドがホスト・モードの定義によって送られます。
- 31 電源を入れる前に押し続けると、デバイスはCUS1ホスト・モードに選択されます。
- 32 CC# MIDIコマンド またはPCプログラム変更コマンドがカスタマイズ可能なホスト・モードの定義によって送られます
- 33 電源を入れる前に押し続けると、デバイスはCUS2ホスト・モードに選択されます。
- 34 CC# MIDIコマンド またはPCプログラム変更コマンドがカスタマイズ可能なホスト・モードの定義によって送られます。
- 35 電源を入れる前に押し続けると、デバイスはAXEFホスト・モードに選択されます。
- 36 通常時にこのボタンを押すと、CC# MIDIコマンド またはPCプログラム変更コマンドがホスト・モードの定義によって送られます。

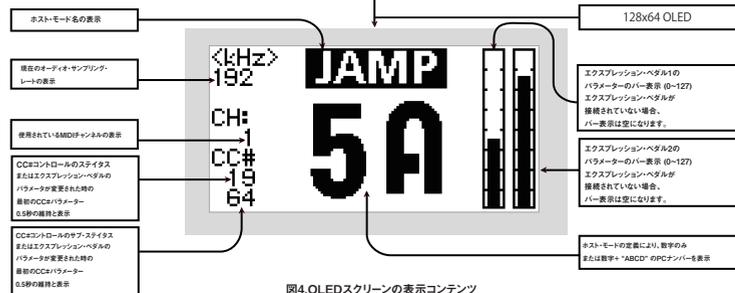
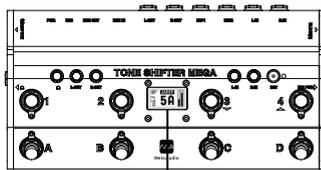
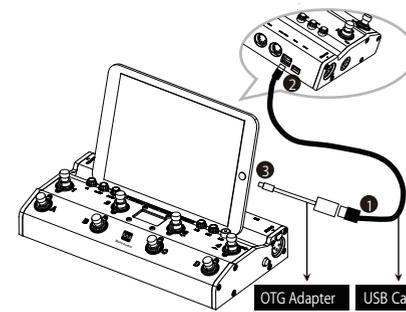


図4. OLEDスクリーンの表示コンテンツ

クイックガイド

(下記ではギター演奏でTS MEGAを使う方法を紹介する為にiPadを使用しています。)



1. TS MEGAとiPadをライトニングUSBカメラアダプターとUSBケーブルを使用し、上の図の順番で接続してください。ライトニングからUSBアダプターの充電が可能な場合、必要に応じてiPadを充電してください。
2. iPadの音量は80%~90%が適しており、ホストの音量はデバイスよりも大きい必要があります。
3. TS MEGAの1/4 L INへギターケーブルを差し込み、L INを0dBに設定します。(ファルトゲイン)
4. ほとんどのソフトウェアアプリでは、ソフトウェア入力チャンネルと実際のチャンネルを使用して互換性を確認します。デフォルトではチャンネル1です。
5. イヤホンを接続するか、モニターをライン出力に接続します。ギターアンプに接続するときは、ソフトウェアでキャビネットのシミュレーションを終了する必要があります。ギターキャビネットに使用されるギターアンプとスピーカーは、周波数レスポンスのフルレンジフラットデバイスではない為です。キャビネットのシミュレーションは、ギターアンプが行っているジョブを行います。シグナルチェーンでこの処理を2回行うと、音が不自然になります。(EQ調整は、正しく実施されていれば問題を発生しにくく可能です。)
6. ソフトウェアでウルトラローレイテンシーを有効にしてください。
7. ほとんどのiOSオーディオソフトウェアは、アプリケーションが開かれるか画面が湧いても操作を続行する、バックグラウンド実行モードをサポートしています。使用しない時は、ソフトウェアはDeviceの消費電力の加速を防ぐ、バックグラウンドを終了してください。
8. 初めてMIDIコントロールを使用する時は、ソフトウェアでMIDIコントロールを有効にする事で、利便性と素晴らしい音色を楽しむことができます。

図5.推奨する接続の順番

ファンクションズ

1. オーディオインターフェース機能

TS MEGAはUSBオーディオクラス2.0プロトコルと最大192kHz / 24bitの高速データ転送を統合しています。これは、ハイエンドのデジタルオーディオアプリケーション用の超低ジッターローカルオーディオクロックを備えた完全非同期高速USBデジタルオーディオ転送で設計されています。レコーディング/エフェクトのアプリケーションやソフトウェアの設定から、ウルトラローレイテンシーのサポートをいつでも得ることが可能です。これは、iOS、Mac OS、およびAndroidシステムによってサポートされています。Windowsシステムでは、ローレイテンシーのレコーディングとモニタリングを実現するには、適切なASIOドライバをインストールする必要があります。搭載されているローノイズファンタム電源、Hi-Fiイヤホンアンプ、完全差動バランスリアンプのリアンプ設計により、屋外でも旅行でも簡単なハードウェア構成でスタジオレベルのローノイズレコーディングが可能です。TS MEGAのラインは、スピーカー/モニター/アンプ/ミキサーへのバランス接続とアンバランス接続の両方に対応できるように設計されています。ライショアやアウトドアで非常に便利なバランスのとれた出力によるローノイズ、ローリングドロップ、耐干渉性を備えた長距離(> 30m)の伝播には、大きな利点があります。Lチャンネル入力は、ダイレクトスイッチでコントロールされたアナログブーストエフェクトを接続して、ギター信号と中高域のブライトネスを強化することが可能です。

上記の図2は、TS MEGAオーディオインターフェースの主な機能と動作を紹介しています。以下の表は、ノブ機能の補足説明です。

名前	詳細	機能
Lチャンネル入力	Lサウンドチャンネルのゲインコントロール。dBで表示、デフォルトは0dB	バイパスモードのON/OFF時に使用。すべてのLとRは(L + R) / 2として出力に混合されます。
Rチャンネル入力	Rサウンドチャンネルのゲインコントロール。dBで表示、デフォルトは0dB	バイパスモードのON/OFF時に使用。L入力からL出力、R入力からR出力。
Lチャンネル出力	Lサウンドコントロールのボリュームコントロール	出力のミュート/アンミュート
Rチャンネル出力	Rサウンドコントロールのボリュームコントロール。0-47(100%)	出力のミュート/アンミュート
Earphone output	イヤホンのゲインコントロール。0-47(100%)	出力のミュート/アンミュート

2. MIDI 機能

TS MEGA MIDIインターフェースを外部MIDIキーボードと接続して、MIDIからUSBへ変換します。MIDI出力はコントロールメッセージを標準のMIDIフォーマットで送信し、TS MEGAは他のハードウェアギアをコントロールする独立したMIDIコントローラヘッドとして機能させます。MIDIコントロールをよりよく理解するには、以下のセクションを参照してください。MIDIコントローラーとは? :MIDIは " Musical Instrument Digital Interface "の略で、テキストレベルのデータをコンピュータまたはモバイルデバイスに転送し、受信したデータを音符またはコントロール情報に変換し、プリセット変更、または他のパラメータ変更を行います。コンピュータは、MIDI音源であればMIDI合成を行い、音楽データを再生、制御データについては、トーンを切り替えるなどの予め定義された命令に基づいてコンピュータを動作させる。MIDIの大きなメリットの1つは、データサイズが小さいことです。曲はMIDIによって生成され、データサイズは通常数千バイトから数十千バイトの範囲です。同様にMIDI制御データも非常に小さく、超低レイテンシーリアルタイム転送を実現します。

MIDIチャンネル送信 (MIDI OUTインターフェイス使用)および受信 (MIDI INインターフェイス使用) デバイスでMIDI通信が行われます。すべてのデバイスは、送信前にCH1~CH16の同じMIDIチャンネルに設定しないMIDI信号に反応しません。すべてのチャンネル(1-16) 信号を受信するように設定されている場合は、MIDI信号を受信して処理することもできます。ヒントほとんどのMIDIデバイスのデフォルトチャンネルはチャンネル1です。

MIDI接続:上記のように、デバイスはMIDIコネクタを備えたMIDIに対応しています。一般にMIDIケーブルは、5ピンのおからオスのケーブルをソケットデバイスに接続されています。MINI INとOUTは同じソケットを使用しているため、ソケットで識別するだけで区別できます。接続の原理は、送信デバイスのMIDI OUTを受信デバイスのMIDI INに接続することです。受信したデータを他のデバイスに送信するためのMIDIスルーホールがあります。

MIDIコマンド:これは最も重要なセクションです。MIDI命令/コマンドは、固定フォーマットのパラメータを設定します。上記で紹介したように、MIDIデータの大部分は音符、音量、音量などMIDI音楽を再生するためのMIDIパートです。MIDIコントロールコマンドの送信と機能について具体的に説明していきます。MIDIコントローラから送られたコマンドは、PCコマンド (PCはプログラムチェンジを意味します)とCCコマンド (CCはコンティニューアコントロールを意味します) を中心とした各セクションの値です。簡単に言うと、PCコマンドには0から127までのインデックス番号が含まれています。ホストは受け取ったPC番号に対応するプリセット番号を切り替えます。ほとんどのエフェクト、ソフトウェアサイザー、MIDIキーボードでMIDI PC命令がサポートされています。CCコマンドは通常、エフェクトモジュールのON / OFF、エクスプレッションペダルの位置など、他のパラメータをコントロールするために使用されます。CCコマンドは主に2つの数字を含む。最初のものはCCインデックス番号 (0-127)で、2番目はサブパラメータ (0-127)です。インデックス番号は異なる命令を指示するためのラベルであり、サブパラメータは実際の内容である。一般に制御対象は、ボリューム、ワウ、ON / OFF状態、モジュールスイッチなどです。サブパラメータの値は状態を表します。たとえば、ボリュームコントロールでは、データ0~127はラウドネスに対応します。ON / OFFの状態によっては、0-63はOFF状態、64-127はON状態を表します。

MIDI学習:CCコマンド機能には限られた基準はなく、デバイスや製造元によって異なります。いくつかシンプルに制御機能を設定するために受信デバイスまたはコントローラにセットアップする。MIDI学習と呼ばれる機能があります。

受信時にMIDI学習モードを聞くデバイスが命令をセットすると、待機状態に入ります。次にコントローラがCCコマンドを受信デバイスに送信すると、

デバイスはこれを記録。CCコマンドを実行し、現在のアクションに割り当てます。MIDI学習機能は、ホストギアまたはAppsでサポートされており、詳細なコマンド内容を認識しなくともCC#の実行が可能です。

TS MEGA MIDIコントローラは、MIDI COMMANDERというモデル以外の製品、ほとんどの機能を継承します。

このMIDIコントロール機能により、ギタリストは容易にソフトウェアエフェクト、高度なマルチエフェクト、ラック機器、MIDIコントロール付きギターアンプなど機器を

足でトーンプリセットとしての使用が可能です。この機能はほとんどのMIDI入力端子を備えたハードウェアギアやオーディオソフトとUSB MIDIが搭載された

ハードウェアに対応。より便利に使いこなすには、ソフトウェアまたはギアに基づいたプリセットのHOSTモードにセットします（ここではすべてHOSTと呼ばれます）。

TS MEGAにはカスタマイズ可能なHOSTモードが2つ装備されています。一方、Wahとボリュームを同時にコントロールする2つのエクスペリションペダル入力。

柔軟性と創造性を高めます。TS MEGAは小さなサイズでライブピュアレコーディング可能、更に持ち運びが容易で、大変便利なツールです。

異なるホストモードの切り替え

電源を入れたときにボタンを押し続けて（USBケーブルを差し込む）、別のホストモードに切り替えることができます。次の表に、詳細を示します。

エントリーモード	モード名	モードの説明
ボタン1を押し、ONにする	JAMP	IOSソフトウェアJamupでの使用に適しています。1から4のボタンは、JamUpのデフォルトのモジュールスイッチを制御できるccコマンドに使用されます。式1はWah（ハッチェーンでフウを有効にする必要がある）を制御し、式2は音量を制御します。A〜Dは、グループ内のパッチ切り替えの位置を制御します。上下のボタンは、パッチ交換、合計8グループと32パッチを制御します。タップ機能、再生一時停止機能など、すべてのCCコントロールのコンテンツをJamUpソフトウェアで再編集または新しい機能に学習できることにご注意ください。
ボタン2を押し、ONにする	BIFX	Bias FXソフトウェアのエフェクトに使用され、JAMPホストモードに似ていますが、PC番号を表示する方法は純粋にデジタルです。
ボタン3を押し、ONにする	KMPA	Kemper Profilingハードウェアエフェクトに使用されます。PC番号は5つの声のグループで構成されています。ボタン4は、このモードで各グループの5番目のプログラムを切り替えるためのPCコマンドを送信するために使用されます。
ボタン4を押し、ONにする	AXEF	AXシリーズのハードウェアエフェクトに使用され、4つのパッチがグループです。1〜4ボタンはCCコマンドを送信するために使用され、A〜DボタンはPCプログラム切り替え命令を送信するために使用されます。
ボタンAを押し、ONにする	ATOM	ATOMICシリーズのハードウェアエフェクトに使用。
ボタンBを押し、ONにする	PC-8x	1〜4とA〜DはこのモードでPC命令を送信するために使用され、8つのパッチはグループで、8つの異なるパッチ。
ボタンCを押し、ONにする	C1	カスタムモード1。CCコントロールとPCコントロールの特定の内容は、カスタム設定モードで個人的に変更して保存することができます。
ボタンDを押し、ONにする	C2	カスタムモード2。CCコントロールとPCコントロールの特定の内容は、カスタム設定モードで個人的に変更して保存することができます。

注意:HOSTモードと実際のホストを一致させることは必須ではありません。最終需要に対応するためにHOSTモードを柔軟に選択することができます、制御は実際のPCおよびCCコマンドによって完全に決定されます。メーカーには厳しい基準はありません。HOSTモードが一致していても、プリセットされたすべての制御機能に対してすべての命令が一致するとは限りません。

カスタムセットアップモードに入る

ボタン4とDを同時に押すと、デバイスの電源が投入され、カスタムセットアップモードに入ります。ボタン2と3で3つのサブメニュー "MIDI.CH"、"CUS1"と "CUS2"が切り替わります。メニュー "MIDI.CH"は、異なるHOSTモードの対応するMIDIチャンネルを設定するために使用されます。

このモードでは、ボタンを上下に押すと、ホストモード、ボタンB、CがMIDIチャンネル変更のために選択されます。メニュー「CUS1」は、

CUS1 HOSTモードですべてのカスタムパラメータを設定するために使用。以下の表はパラメータおよびファンクションの紹介です。

設定されたパラメータは、対応するカスタムモードでのみ有効になります。

ボタン4およびDは選択パラメータの選択に使用され、ボタンBおよびCはその値および内容の変更で使用されます。

S/N	パラメーター	オプション	インストラクション
1	ABC/123	ABC, 123	パッチ番号を1A、1B、1C ...または1,2,3で表示選択します。
2	バンクムープ	4x, 5x, 8x, 10x	いくつかのパッチをグループとして選択します。パッチグループでは10xを小数点に使用していますが、各グループの9番目と10番目はスキップされている為、8個のフットスイッチでコントロールが可能です。
3	バンクモード	WAI, IMM	WAUIは、パッチが変更された後にジャンプすることなく、フットスイッチを押し、スクリーンが点滅した後に新しいグループのパッチジャンプを待ちます。IMMは次のグループの最初のパッチにジャンプすることを表します。
4	SCR Start	0, 1	0は画面に表示されるパッチテーブルを0から、1は1から始めます。
5	PC Start	0, 1	0は最初のパッチテーブルのPC値が0であることを示し、1は実際のPC値が1であることを表します。第4と第5の設定を一致させると、画面表示をホストディスプレイ番号に合わせる可能性があります。SCRが0でPCが1の場合はありませんが、この場合の設定は自動的に無視されます。
6	EXPI CC#	0~127	エクスペリションペダル1のCCインストラクション・ナンバーを設定します。
7	EXP2 CC#	0~127	エクスペリションペダル2のCCインストラクション・ナンバーを設定します。
8	KEY 1 MOD	PC#, CC#	PCまたはCCコマンドを送信する為のボタンを設定します。
9	KEY 1 CC#	0~127	CCインストラクションの場合はインストラクション・ナンバー、PCインストラクションの場合は無効となり、PCの値はキーの位置によって決まります。
10	KEY 1 Tog	OFF, ON	ONに設定すると、サブパラメーターは毎回0と64の間で切り替わります。
11	KEY 2 MOD	PC#, CC#	PCまたはCCコマンドを送信する為のボタンを設定します。
12	KEY 2 CC#	0~127	CCインストラクションの場合はインストラクション・ナンバー、PCインストラクションの場合は無効となり、PCの値はキーの位置によって決まります。

5

S/N	Parameter	Option	Instruction
13	KEY 2 Tog	OFF, ON	ONに設定すると、サブパラメーターは毎回0と64の間で切り替わります。
14	KEY 3 MOD	PC#, CC#	PCまたはCCコマンドを送信するためのボタンを設定します。
15	KEY 3 CC#	0~127	CC命令の場合は命令番号、PC命令の場合は無効、PCの値はキーの位置によって決まります。
16	KEY 3 Tog	OFF, ON	ONに設定すると、サブパラメーターは毎回0と64の間で切り替わります。
17	KEY 4 MOD	PC#, CC#	PCまたはCCコマンドを送信するためのボタンを設定します。
18	KEY 4 CC#	0~127	CCインストラクションの場合はインストラクション・ナンバー、PCインストラクションの場合は無効となり、PCの値はキーの位置によって決まります。
19	KEY 4 Tog	OFF, ON	ONに設定すると、サブパラメーターは毎回0と64の間で切り替わります。
20	KEY A MOD	PC#, CC#	PCまたはCCコマンドを送信するためのボタンを設定します。
21	KEY A CC#	0~127	CCインストラクションの場合はインストラクション・ナンバー、PCインストラクションの場合は無効となり、PCの値はキーの位置によって決まります。
22	KEY A Tog	OFF, ON	ONに設定すると、サブパラメーターは毎回0と64の間で切り替わります。
23	KEY B MOD	PC#, CC#	PCまたはCCコマンドを送信するためのボタンを設定します。
24	KEY B CC#	0~127	CCインストラクションの場合はインストラクション・ナンバー、PCインストラクションの場合は無効となり、PCの値はキーの位置によって決まります。
25	KEY B Tog	OFF, ON	ONに設定すると、サブパラメーターは毎回0と64の間で切り替わります。
26	KEY C MOD	PC#, CC#	PCまたはCCコマンドを送信するためのボタンを設定します。
27	KEY C CC#	0~127	CCインストラクションの場合はインストラクション・ナンバー、PCインストラクションの場合は無効となり、PCの値はキーの位置によって決まります。
28	KEY C Tog	OFF, ON	ONに設定すると、サブパラメーターは毎回0と64の間で切り替わります。
29	KEY D MOD	PC#, CC#	PCまたはCCコマンドを送信するためのボタンを設定します。
30	KEY D CC#	0~127	CCインストラクションの場合はインストラクション・ナンバー、PCインストラクションの場合は無効となり、PCの値はキーの位置によって決まります。
31	KEY D Tog	OFF, ON	ONに設定すると、サブパラメーターは毎回0と64の間で切り替わります。

特定の状況で発生する場合があります。

グループのトーンを設定しつつ、1〜4のボタンはPCインストラクション・モードでは使用できません。グループに5つのトーンを設定すると、ボタン1〜3はPCインストラクション・モードでは使用できなくなります。

課された設定は機能しません。（#2）リンク移動から始まるセットアップオーダーに従ってください。メニューCUS2は、パラメータリストと同しCUS2ホストモードですべてのカスタムパラメーターを設定するために

使用されます。CUS1とCUS2のファクトリ設定は異なることに注意してください。CUS1とCUS2の設定は相互に独立しており、変更後も自動的に両方の設定を保存できます。

出荷時設定に戻す

機能に不具合が生じ、まともな修復した場合は、電源を切り"左ゲイン"と"右ゲイン"ボタンを同時に押しながら電源を入れると工場出荷状態に戻ります。

実行するとキャンセルできません。ご注意ください。またデフォルトモードはJAMP、1Aトーンです。

KEY FEATURES

•ハイエンドデジタルオーディオアプリケーション用の超低ジッターローカルオーディオクロックによる完全非同期高速USBデジタルオーディオ転送

• サンプルレート:44.1 / 48,88.2 / 96,176.4 / 192kHzサンプルの深さ:16/24ビット

•コンデンサーマイク用のオンボード低ノイズファンタム電源XLR入力付き最大47dBのプリアンプによるマイクの差動アナログ入力

• XLR出力との短距離または長距離接続用の平衡/不平衡ライン出力

• USB-MIDIコントロールと標準MIDIコントロールの両方に対応

• 制御用の8つのフットスイッチ

•スクリーンインジケータ付き2つの独立したエクスペリションペダル出力

• JamUp, Bias FX, KPAなどの6つの一般的なホストモード

• 2つのカスタムホストモード

• ダイナミックレンジ:108 dB (Aウェイト)

• THD+N: < 93 dB

• 消費電力:0.8W

• 消費電流:0.15A

• 重量: 0.98 kg

• サイズ: 260 cm x 130cm x 60cm

1.ギター演奏や自宅での練習

iPhone / iPad / PCを接続し、ヘッドホン/イヤホンや机のモニターを使用して再生します。Appsやソフトウェアの利用すれば、録音やモバイル機器やPCへの直接の保存が可能です。バックトラックをインポートしたり、リアルタイムJAMの再生を行うこともできます。

2.ギター演奏や自宅での練習

セットアップは自宅での使用方法とはほぼ同じです。出力をミキサーまたはギターアンプ（アンバランスギターケーブルと互換性があります）に平衡ラインを介して接続することができます。また、外部MIDIコントローラーまたはMIDIキーボードをMIDI入力端子に接続することもできます。

PCコマンドとCCコマンドの両方を含むMIDIコントロール信号は、USB-MIDI信号に転送してAppsまたはソフトウェアに直接送ることができます。

3.コンデンサーマイクで歌声を録音する

コンデンサーマイクをXLR入力に接続します。Appsまたはソフトウェアの入力としてR (IN2) チャンネルを選択します。ファンタム電源をオンにします。

ヘッドホンモニターを置く。内蔵プリアンプのマイクゲインをMAXレベルまで上げて、必要なレベルまで下げてください。ノイズレベルが非常に低い、非常に高品質のサウンドが得られます。その後、録音やボーカルのリアルタイムモニタリングを行うことができます。この高品質の生のレコードでは、

音の詳細を失うことなく、後の編集やエフェクトを後で追加できます。

4. 2つのギターまたは録音と同時に再生する

ここでは、ソフトウェアを使用して同時録音の方法を紹介します。バックグラウンドで2つのソフトウェアを開き、

1つは左チャンネル入力を選択し、もう1つは右チャンネル入力を選択します。

オーディオバスアプリでオーディオ信号のパスをカスタム化することもできます。GarangeBandのインラインインサート機能も便利です。

6

よくある質問

Q：オペレーションシステム(OS)で使用するドライバーは必要ですか？

A：Mac OS,iOS,Androidはドライバーは不要ですが、Windowsで使用する際は専用のASIOドライバーが必要です。
下記リンクからダウンロードしてインストールして下さい。

MeloAudio専用ASIOドライバー(Windows版)

Q：BIAS FX, JamUpなどのソフトウェア・エフェクトを使用する際iPhoneやiPadと接続方法を教えて下さい。

A：Apple純正のライトニングコネクタを備えたOTGケーブルで接続して下さい。
他社のOTGケーブルはライセンスが取得されていないので不具合が生じる場合がございます。

Q：他のApps/ソフトウェアと連携できますか？

A：はい。全てのアプリケーション/ソフトウェアの外部オーディオインターフェースとしてご使用頂けます。

Q：通常のダイナミックマイクをマイク入力に接続することはできますか？

A：はい。ダイナミック、コンデンサマイクの両方をご使用頂けます。コンデンサマイクを使用する際はファンタム電源をご使用下さい。

Q：レコーディングやエフェクトソフトウェアで超低遅延モードにする方法は？

A：各ソフトウェアの「オーディオ設定」メニューのオプションから設定を行って下さい。

Q：正しく接続しましたが音が出ません。

A：各項目をそれぞれ確認して再度、起動してみてください。

a) OTGケーブルはApple純正品か確認して下さい。

b) ケーブルは断線していませんか？

c) システムの出力音量、TS MEGA本体、iPhone/iPad本体などのボリューム調整は行っていますか？

WindowsOSのご使用の場合

a) USB接続を確認して下さい。

b) ASIOドライバーを確認して下さい。

c) システムのオーディオインターフェースがTS MEGAに選択されていますか？

d) 入力チャンネル、VSTマッピングを確認して下さい。

e) システム音量の設定を確認して下さい。

MacOSのご使用の場合

a) システムのオーディオインターフェースがTS MEGAに選択されていますか？

b) 入力チャンネル、VSTマッピングを確認して下さい。

c) システム音量の設定を確認して下さい。

Q：ベースでも使用できますか？

A：はい。ベースでもご使用頂けます。

Q：お奨めのアプリケーションやソフトウェアはありますか？

A：下記のソフトウェアのご使用をお奨めします。

iOS:BIAS FX, Ampkits, GARAGEBAND, Amplitube, ToneStack Goなど

Mac OS:BIAS FX, Guitar Rig, AmpliTube, GARAGEBAND, Mainstage, Revalver, Overloud THなど

Windows:BIAS FX, Guitar Rig, AmpliTube, Revalver, Overloud THなど

Android OS:AmpliTube (スマートフォン、タブレットによってアプリの快適さが異なりますので注意して下さい。)

Q：MIDIコントロールが機能しません。

A：MIDI設定画面を開いてTS MEGAが選択されているか確認して下さい。

MIDI信号の割り当て設定方法は各ソフトウェアのメーカーにお問い合わせください。

Q：MIDIケーブルかで電源供給できますか？

A：いいえ。USBケーブルで電源供給して下さい。

Q：エクスプレッションペダルは使用出来ますか？

A：はい。下記FXペダルと組み合わせてご使用頂けます。

ZOOM: FP02M ROLAND: EV-5 YAMAHA: FC7